

## 定期報告

2011年5月14日

天候:晴れ 温度:22°C 湿度:50% 風:強い

放射線量:0.09  $\mu$  Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 朝:さんまトースト、野菜ジュース

昼:コンソメラーメン、ごはん

夜:炊き込みご飯、さんまのキャベツ炒め、焼き鳥

氏名:坂本賢

体調:良好

行動日誌

5:40 起床

6:40 朝食

8:45 スタッフミーティング

12:00 昼食

12:10 藤川医師チーム到着、看護師チーム、医師チームで引き継ぎ。  
当社より坂本が参加

13:00 午後の診察

16:00 診察終了

17:00 釜石災害支援対策本部会議

18:10 大槌高校着

## 大槌高校救護所ミーティングでの伝達事項と対応

・最新版の保険医療機関リストの確認(現在は5月6日版)

→A3 サイズへ拡大コピー。大槌町の医療機関をマークし説明時に利用。また、pdf ファイルとして保存した。

・湿布の在庫について(モーラステープ20mgについて)

→9:00AM には納品された。多種類の湿布が少量で残っている状態となっているため、本日午後から診察を開始した藤川医師へ処方時に確認していただきたいことを伝えた。

・次亜塩素酸ナトリウム溶液の希釈オーダー方法

→石井愛保健師(愛知県常滑市)より、0.02%溶液(ドア、トイレの取っ手)、0.1%溶液(嘔吐、下痢時)ともに、感染症が予測される時に使用するため、現時点では必要がない。また、必要時には薬局に相談する。

\* 避難所内には、常時、0.1%は用意してあり定期的に交換している。

・キシロカイン注の発注確認

→藤川医師 20 本持参。発注の必要はないだろうとのこと。今回は発注をしない。

本日より藤川医師がこちらの仮設診療所へ参加。また、この仮設診療所初の医師1名体

制となる。

そのため、診察室内のレイアウト、流れなどについても、本日午後、藤川医師チームと確認しながら変更を行った。

また、医師が1名となることで、釜石災害対策会議時間帯(16:00~18:00 ごろまで)に、医師が不在となることなど、避難所管理者の佐々木さんへ伝え了解をいただいた。

## その他

- ・患者様の要望と処方内容が異なる件が2件。
  - つくし薬局へ連絡し対応。(ハルシオン院外をキャンセルし、レンドルミン D のみ院内で処方)
  - つくし薬局で安中散が在庫なしと連絡。入荷が月曜日のため、院内在庫があったため、そちらもキャンセルとなった。
- ・残薬調整を含めた処方提案
  - アムロジンのみ足りない。足りない分のみ救護所内で対応

## 15日朝礼での連絡、確認事項

- ・小型パップ剤はモーラステープのみ処方
- ・スタッフの入浴場所について確認(藤川医師より)
- ・医療機関リストの加工、掲示
- ・不在時間帯についての管理者へ伝えた件

氏名:長尾 勇志(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

6時00分 起床

6時20分 洗顔、朝食準備開始

7時00分 松原医師チームと朝食。打ち解けてきた中で最後の食事となり寂しい感じもする。  
朝食をとりながら引継ぎ事項などを確認

8時45分 午前の診療開始。

相変わらず初診の方がいらっしゃらない。再診患者の中でも不眠、眩暈、  
痛みの悪化を訴える方が多い。

11時00分 診察中に体調を崩される方がいらっしゃった。症状から見ると過呼吸症状を  
発現し、非常に苦しそうだ。どうやら地震による辛いことを思い出した模様。  
松原医師が処置を行い、15分程度で落ち着いてきたようだ。

子供がいるので戻るとおっしゃり、帰っていかれた。

身体的症状だけではない。避難生活によるストレス、将来へ不安感が大きいので  
だろう。徐々に立ち直ってくれることを切に願う。

12時00分 藤川医師チームが到着。

診察室にて引継ぎ開始。引継ぎ終了後、昼食を急いで済ませる。

13時00分 午後の診療開始。

医師が2名から1名へ減少したため、診察室のレイアウト変更あり。

今までは医師が2名だったため、廊下にて問診等を看護師が行い診察室に入る  
流れだった。1名になったことで、診察室の中で問診するスタイルへ変更。

診察室で問診することで、プライバシーがより守られるようになったことは  
喜ばしいことと思う。

昨日、キシロカイン注が不足ということが発覚したが、藤川医師が20アンプルを  
持参された。外科処置に必要な薬でもあり安心した。

14時30分 診察室前にて母親がいなくなったと騒ぐ女の子がいた。

しばらく坂本賢薬剤師が女の子から状況を確認。

その後、母親が現れ無事保護していただいた。その母親は先ほどの  
過呼吸を起こした方だった。子供のためにも力強く頑張ってもらいたいと思う。

15時00分 保健師チームが交代になるため、保健師の方が挨拶にいらっしゃいました。

医療スタッフが少なくなっていくことは、救護所を閉める方向に向かっていることを  
示すので地元の病院・診療所が早期に立ち上がることを願う。

一方、避難所の被災者人数はなかなか減少していかないと思われるので、  
これから少ない人数でもよりの確、迅速に行動していきたい。

16時00分 診察終了。

藤川医師、曾我看護師、坂本賢薬剤師、佐藤総務の4名にて

## 釜石災害対策会議に出発

見年代看護師、柏崎看護師、長尾にて夕飯調理開始。

18時00分 急患受付。釜石災害対策会議より帰着した藤川医師診療開始

18時40分 急患処置終了後、夕食開始。藤川医師チームと親睦を深めるべく一緒にお食事。食事後も急患2名受診。

処置終了後、物理教室(控室)へ小学生等の入室が容易であることについて藤川医師へ報告。明日以降、特に土日など小学生等が小学校休校のため、避難所から離れない環境、つまり入室しやすい環境であるようならば、診療中は救護所でカギの管理をすることを提案。

了承頂けたので、明日以降、佐藤総務担当に事務室に確認していただき、実施したいと思う。

22時前後 就寝

## その他

夕飯調理中に、小学生が遊んでいる途中ということで部屋(物理教室)に入ってきた。

体育館は狭い、外に出ても臭いし遊ぶところがないと訴え。確かに瓦礫と化している建物の周辺に遊ぶ場所などない。しばらく話をし、怪我をしないように見守る。

子供には私たちの夕飯の支度、ノートパソコンを見ることも珍しいのかすごい興味を持っていた。少しでも自由に遊べる環境が整うことを願う。

ただ、ここで思ったのが、夕飯準備中だったため、小学生が入ってくることはそれほど問題には思わない。しかし、無人状態になることを考えると施錠は必要ではないだろうか。

上記に記載通り、藤川医師の了承も頂いたので、明日以降カギの管理は救護所で行うことで貴重品の管理等の不安をなくしていきたいと思う。

1つ思ったのが、小学生(11歳)と話をしてみて、とても元気にあふれていた。

将来はどうなりたいかわからないと言っていたが、今を精一杯生きるという姿勢に感動する部分もあった。

以下、診察室レイアウト変更後の風景



↑ 診察室奥部



↑ 薬局ブース



↑ 問診スペース

氏名:(総務)佐藤 栄

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

7:00 朝食

8:45 ミーティング

9:00 診察開始

11:30 昼食準備

12:00 昼食

12:30 松原先生より藤川先生に引継ぎ

13:00 午後の診察開始

14:20 買い出し

15:20 夕食準備

16:30 釜石シープラザ 釜石災害対策会議参加

18:00 大槌高校到着

19:00 夕食

22:00 就寝

11日に来た時よりも臭いも少なくなり、人々の生活も活気づいて来ている